



開校70周年記念式典

9月30日（金）に第70回若鷹祭が、10月1日（土）に開校70周年記念式典が行われます。
この場を借りて、記念式典の中で行われる記念講演会の講師の先生をご紹介します。



◆◆◆ 浅野 博亮（あさの ひろあき）氏 ◆◆◆

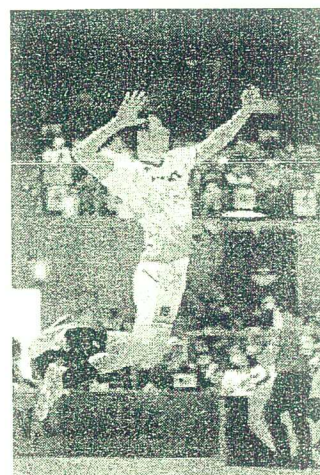
安曇野市出身の元バレーボール選手

【プロフィール】

身長178cmと小柄ながらアウトサイドヒッターとして大活躍し、世界最小アタッカーと呼ばれ日本代表（2015～2018）にも選出された。現在は株式会社ジェイテクトの社員として働くかたわら、バレーボール解説者としても活躍している。また、自ら講師として中信地区でバレーボール教室を行うなど、青少年の健全育成に携わる活動もしている。

【主な経歴】

- 1990 長野県生まれ。安曇野市堀金中堀上手で育つ。
- 2003 三郷中学校入学
- 2005 全日本中学校バレーボール選手権大会ベスト8
JOCジュニアオリンピック大会 3位
- 2006 長野日本大学高等学校 入学
- 2007 国体（少年男子）準優勝
- 2008 春高バレー出場 インターハイ出場 国体（少年男子）
- 2009 愛知大学入学
- 2009～2012 東海一部リーグ四連覇
- 2013 ジェイテクトSTINGS入団
- 2020 Vリーグ V1男子優勝、天皇杯優勝
- 2021 現役引退



特定非営利活動法人VRAVO N+ 設立 講師就任 現在に至る。

■2015～2018 日本代表実績

- 2015 ワールドカップ出場 ワールドリーグ出場 第18回アジア男子選手権大会出場 優勝
- 2017 第19回アジア男子選手権大会出場 優勝
ワールドグランドチャンピオンカップ出場 ワールドリーグ出場
- 2018 世界選手権出場

◆◆◆ 山本 憲吾（やまもと けんご）氏 元バレーボール選手 ◆◆◆

【プロフィール】

1992年生まれ。大阪市出身。中学生の時に自らバレーボール部を立ち上げた。VC長野トライデンツで4年間活躍した後、2021年に引退。現在南箕輪小学校で体育教師として日々奮闘する傍ら今もバレーボールの普及に努める。

また、ビデオで本校出身の現役Vリーガー柳澤広平さんも出演予定です。



記念式典では、70年前の開校当時や校舎が火事で焼失して和田校で奮闘していた当時の生徒の作文を、現在の高綱中の生徒6名の皆さんに朗読していただき、当時の写真と共に高綱中の歴史を振り返ります。

記念講演会を含め記念式典は生徒職員のみで行い、ご家庭にはYoutubeの限定配信で様子をお伝えします。

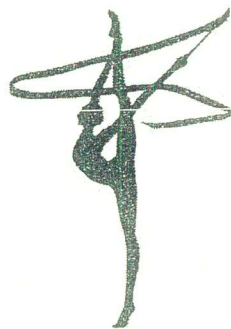
記念品について

学校記念品として、実行委員会で検討した結果、長く使ってもらえるようにと松本民芸家具の演台と花台のセットを購入することに決定し、過日PTAより発注いたしました。製作は、本校出身の伝統工芸士の方が全工程を行って下さるそうです。お披露目は卒業式の時になります。末永く、高綱中で学校生活の節目節目で花を添えるものになれば、と思っています。

また、生徒への記念品：航空写真のクリアホルダーとシャープペンシルは10月1日にお配りします。

全国中学校体育大会結果報告

本校2年の生徒が8月22日(月)～25日(木)に岩手県北上市で行われた第53回全国中学校新体操選手権大会(全国中学校体育大会)に北信越代表者4名の一人として参加しました。ブルーのコスチュームに身を包み、流れるようにしなやかで美しい演技を披露して、出場選手全47名中、クラブ12位、リボン13位、総合で見事11位の成績を収めました。



高綱中学校の歩み その3

記念式典での「高綱中学校の歩み」のために、過去の生徒会誌「高綱」を読む中で、とても魅力的な作文に数多く出会いました。発表の時間の関係で採用できなかったものの中から今回は一つここに掲載させていただきます。

昭和35年度

2年4組 小沢 忠雄 さん

「もう中学3年生になるのか。早いなあ。」と僕はつぶやいた。今年の4月になると、中学生生活の最後の年が来る。いよいよせっぱ詰まってきた、1年に入ったのが、ごく最近のように思われてくるのだ。3年になると今まで年6回だったテストが年12回、高校入試または就職試験も合わせて13回、今考えただけでも嫌になる。今まで僕は「勉強」というものはそんなに大事なことであろうか」と思っていた。それだから、テストの2、3日前にちょっとやった。そんなことでテストができるはずがなかった。

しかし、このごろ僕はなんだか「学生の本分は勉強である」と言う言葉が分かってきたような気がする。そう思うと、今まで遊んできたことが残念に思えてしょうがない。

勉強というものは、自分がやる気が無いと、他の人からどんなに注意意見をされても、絶対に能率が上がらなくて、だめだと思う。「何事においてもそうだ」と思う。学習の主なことは、予習と復習である。僕は復習しかしないが、それでも最低2時間はしなければいけない。「学生の本分は勉強だ」ということを常に頭の中に入れて勉強に励みたい。

遊ぶということは勉強をして頭の疲れを休めるためにするものだということも分かってきた。新しい年、35年も早2月、「月日が経つのは早いもの」と言葉にも言われているが全くその通りである。

僕の家は小農家である。小農家であるが、仕事は、人の二倍も三倍もしなければいけない運命で立っている。今年もまた田植えから稲刈りし玄米ずりと同じことをまた繰り返さなければいけない。田植えの時はズボンに泥だらけにして腰が伸びなくなるまで植えた。「田植稲植機」というのができた。」と僕は去年の新聞に書かれていたのを覚えているような気がするが、もし本当だったら早く安い値段で売って欲しいと思う。いろいろな農機具を作った人たちを見ると、ほとんどの人が百姓ではない人たちである。百姓にはひまも金がないからだと思う。僕は「百姓専門の農機具をどしどし作って、よろこばせてやろう」とどんなに思ったかしれない。母は「お前の頭が一級品であれば苦勞して大学まで出してやりたいが、どうも二級品の部類に入るね」などと言って僕をからかう。僕は「あまり頭がよくても不便なこともあるし、まるっきり行けなくてもまたこれも不便なところもある」と思う。

1960年はよく新聞には「黄金の年」などと書いてある。僕も今年は黄金の年になるように希望を持って、一日一日過ごしていきたい。(生徒会誌「高綱」第7号より)

学生の悩みは時代が変わっても通じるものがありますね。農業機械が今のように整っていない中、田畑の仕事に汗を流しながらひたむきに前向きに未来に向かって歩もうとする姿勢に感動しました。

連絡

・20日にメールでお知らせしたとおり9月29日の下校時刻が変更になっています。

・9月30日の生徒下校後に記念式典のリハーサルを行います。関係の生徒には事前にご連絡させていただきます。